

映山紅

あらし山白地にべにの二人まづかき中りんおそらくのことなしまたくれない大りんない
きりかねる中りんたかさごうす紫おり入大りんないかうやくれない中りんない
まんくれない大りんない八でうくれない大りんないはつれゆき花のす色大りんないさつま紅い大りんない
大萬葉くまなやう大りせんやうくれない中りん萬葉やう大りんこくれない小りんない
まご白赤大りん花のはごろも赤小まよくかうすり地にべにのかひろ島まぼり入大り赤とび
名月中りんべにまぼりとうび色に赤ちり中りんゆき平りん小
小紫小りんゆふさう大りんこしなみくれない大りんなにはまぼり入大り紫とび
百萬大りんおいへ紫りん中赤り月大りん白り月りん大
とび入白に赤とびきくきりあか中あふみかすりあり少かつらざりりん小
あさぎあをぶるおもだかむらさき大あふみかすりあり少かつらざりりん小
〔和漢三才圖會九十五〕映山紅紅躑躅俗云岐利之末。
草本畫譜云、映山紅生滿山頂、其年豐稔、人競之、
按、本草綱目、山躑躅石榴花映山紅躑躅以爲一物、今別爲二種、凡躑躅葉形類桃及柳葉、映山紅葉
略帶圓形、杜鵑花葉形比映山紅狹長、三種大異也、
映山紅花類杜鵑花而小、深赤色、單葉、三月開花、能映滿山故名之、有大小二種、小映山紅開花最繁
蔽、枝條堪愛、今又有白花者、有單葉八葉千葉之數品、大抵二三尺、高者一二丈、以爲珍、薩摩日向山
谷多有之、移種于諸國、彼地有霧島嶽、山頂燒起、且此花映山故名之、
朝鮮載晉山世稿云、太明成化年中、當得日本躑躅數盆、及其花開、葉單而花瓣甚大、色類石榴、重跗疊
本朝後土御門時、得日本躑躅數盆、及其花開、葉單而花瓣甚大、色類石榴、重跗疊
蔓久而不衰、其與我國色紫而千葉者、妍雖不啻、若嫫母與西施也、上嘉賞之、命下上林園分植、外人秘
莫能得、後一以種盆、一以種地、以試之、種地者凍死、而盆者無恙、數年之間、枝條方盛、按此杜鵑花或大